

# ゲッターロボG 1975年

『ゲッターロボG』（ゲッターロボジー）は、永井豪と石川賢原作の漫画、および同作品を原作とした1975年（昭和50年）5月15日から1976年（昭和51年）3月25日までフジテレビ系で毎週木曜日19時00分 - 19時30分に全39話が放送されたロボットアニメ。『ゲッターロボ』の直接の続編である。ゲッターロボ関係の作品は平成に入ってからテレビやOVAでアニメ作品が発表されたが、いずれも本作とのストーリー上の関連性はなく、アニメ版の『ゲッターロボ』から続く物語は本作の最終回で完結する。漫画版は続編である『ゲッターロボ號』が発表された。

## 【ストーリー】

巴武蔵の犠牲と共に恐竜帝国は滅び、地上に平和が戻ったかに見えた。だが、この時を待っていたかのように新勢力百鬼帝国が科学要塞島を浮上させ侵略を開始した。「鬼」と呼ばれる亜人類で構成された百鬼帝国は30年前に成立した軍政国家で、ひそかに世界征服の機会をうかがっていたのだ。かねてより人類の新たな脅威の出現を危惧していた早乙女博士は新早乙女研究所と新ゲッターロボを開発。恐竜帝国との戦いに生き残った流竜馬と神隼人に加えて車弁慶を新パイロットに迎え、百鬼帝国から人類を守る戦いを展開する。漫画版と異なり、恐竜帝国と百鬼帝国との接点は全く存在せず、『ゲッターロボ』最終回終盤で百鬼帝国が登場しているだけである。

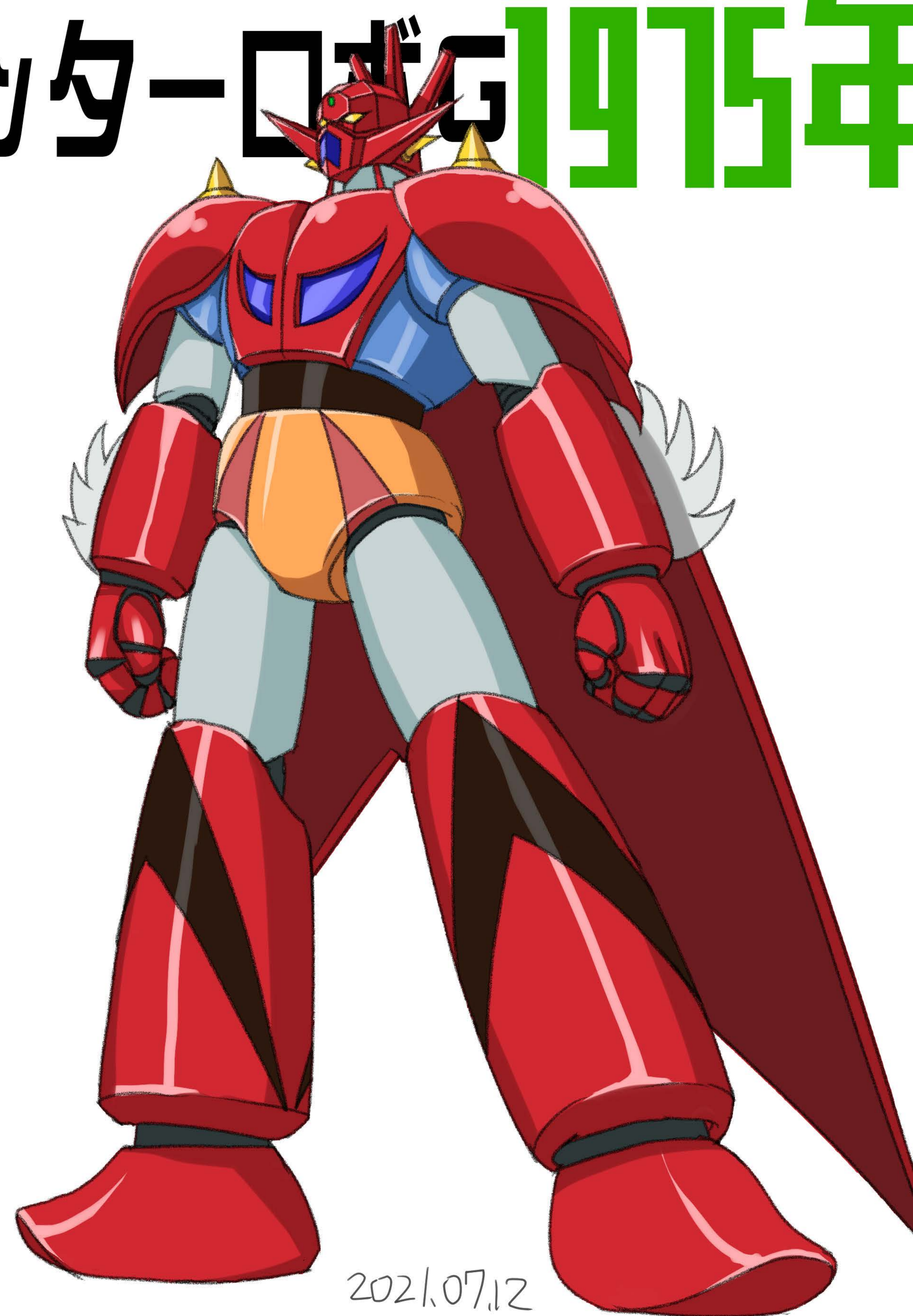
## 【初期案】

元々はいわゆる、玩具スポンサーの事情のマイナーチェンジ作品であり、新しいゲッターロボを登場させ、それを商品展開して行くのが狙いであった。ゲッターロボからゲッターロボGへの移行の際に巴武蔵が戦死することが重要なポイントとなっているが、初期案では原作者の一人永井豪が、真面目過ぎておもしろくないと不満に感じていた流竜馬も戦死することになっていた。新キャラクターは来栖丈（くるす・じょう）と決まっており、その登場が本作への伏線となる予定だった。当時の企画書によれば、来栖丈の父親の来栖博士は早乙女博士とともにゲッター線の研究をしていたが病死してしまった。しかし死の間際に丈にドラゴン号の設計図を託す。早乙女研究所にやってきた丈は父親の遺言ということでしかたなく研究所で暮らしていたがゲッターの戦いには協力せず反発させた。ゲッターチームともたびたび衝突したがその運動能力は隼人や竜馬をも上回っていた。そんな折に恐竜帝国の総攻撃を受け、武蔵が立ち往生の形で戦死、隼人も重傷を負う。一人残った竜馬はゲッター線爆弾を積んだイーグル号で特攻し恐竜帝国を退ける。その死に様をみた丈は竜馬の代わりにドラゴン号に乗ることを決意、また研究所のそばに住み付いていた珍発明家、大枯文治（おおがらし・もんじ）もゲッターチームに志願して新ゲッターチームが出来上がる。この初期案によると新ゲッターはイーグル号をドラゴン号に入れ替えるだけでジャガー号、ベアー号は改造・強化という案になっていた。しかし、「主人公を殺すのはよくない」というフジテレビ側の反発に遭ってしまい、この案はお蔵入りになった。逆に永井は「人が死ぬと言う意味を作品を通じて（視聴者に）感じて欲しい」という切なる願いから、武蔵の戦死だけは強行した原因となった。

## 【ゲッターロボG】

ドラゴン号、ライガー号、ポセイドン号の3機のゲットマシンが合体する巨大ロボット。3機の組合せでゲッタードラゴン、ゲッターライガー、ゲッターポセイドンの3タイプがある。宇宙開発用に設計された初代ゲッターロボと違い、始めから戦闘用ゲッターロボとして開発されており、武器の数も性能も高い。本作品の劇中ではこの呼称は使用されていない(劇場作品『決戦! 大海獣』とOVA『真ゲッターロボ 世界最後の日』でのみ「ゲッターロボG」と呼称される)。動力源はゲッター線エネルギー。ゲッター線増幅装置を搭載し、初代ゲッターロボの10倍の出力を誇るがアニメ版では頻繁にエネルギー切れを起こしていた。各ゲットマシンはより鋭角的なデザインとなり、リフティングボディ機であった旧ゲットマシンよりも機体が大きくなった。また大型の補助翼が装備された。合体時各ロボ形態の口元がキャノピーとなり、直接視認のための視野を確保している。またシート着脱式の独立コクピットにより以前のように格納庫まで足を運ぶ必要がなくなった。出撃シートによりシートセッティング ゴーの合図で直接ゲットマシンに送り込まれる。合体パターンは、初代ゲッターが頭部が他の2機と上下が入れ違ったり(ゲッター-1)、前後ではない合体をしロボの頭部がマシンの後部にある(ゲッター-3)など合体パターンが機体ごとに異なっているのに対し、マシン3機が上下を合わせて前後に合体し、マシンの上面がロボの前面に、マシンの前面がロボの上面になる点で統一されている。初代ゲッターロボと比較すると操作性も向上しており、漫画版では、初代ゲッターを知らない弁慶は初めてゲッター-3を操縦した際、ポセイドンとの操作性の違いに難儀していた。アニメ版では弁慶は初代ゲッターとの接点はない。ドラゴンミサイル、ライガーミサイルなどの固有の武器を装備している。全高：50メートル、重量：330トン（3形態共通）。ただし、1999年にリリースされた総集編『ゲッターロボGメモリアル』内のナレーションではゲッターポセイドンのみ全高45メートルと紹介している。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



2021.07.12



# ゲッターロボG 1975年

## 【ゲッタードラゴン】

ドラゴン号が頭部と胸、ライガー号が胴体と腕部、ポセイドン号が脚部を構成（ただし、アニメにおいて2種類あるゲッタードラゴン合体のバンクシーンでは、いずれも胸部は赤い部分も含めてライガー号からの変形となっていて、変形途中で色がスカイブルーから赤に変わる。放映前のテレビランドのカラー記事などで新ゲッターとして紹介されたゲッタードラゴンの外観では胸部分が青い）。空中戦および基本形態で唯一ゲッタービームを照射できる形態。最高飛行速度はマッハウイングによりマッハ4であり、反重力マントのみで飛行していたゲッター1と違いウイングには極細ながら細かいジェット噴射が幾つも装備されている。初代ゲッターロボでは腹部だったゲッタービーム発射口は頭部に移り4万度にアップしている。他にゲッター1の片刃に対し両刃のゲッタートマホークなどの武装を扱える。なお、スーパーロボット大戦シリーズでは武装自体がダブルトマホークとなっているが、アニメ本編では武装自体はゲッタートマホークであり、通常ダブルトマホークとはゲッター1ともゲッタートマホークの二刀使用を指す（ただし、映画『グレートマジンガー対ゲッターロボG』でも、ダブルトマホークと叫んで、一本のトマホークを使用している）。2本同時に投げる時にダブルトマホークブーメランと呼ばれ、OVAでは、1本でもダブルトマホークである。真ドラゴンのトマホークもダブルトマホークと呼ばれている。他には柄の部分長くしたロングトマホークもある。両腕脇の鋸状の部品は、回転するスピニングカッターに強化されている。アニメ版中盤から「ゲッターシャイン」と呼ばれる高エネルギー発光を起こし、それを敵にぶつける最大の必殺技「シャインスパーク」が追加された。これは全エネルギーを放出するため、一回の出撃において一度しか使えない最強の武器であるが劇中レディコマンドにエネルギー補給を受けて2度使った回があった。また、発動には3人のパイロットが同時にペダルを踏まねばならず、10分の1秒のズレでも技は発動せず、しかもエネルギーは使い切ってしまう。この武装は当初アニメ版のみのオリジナル技だったが、冒険王の最終回で使用された。スーパーロボット大戦シリーズで装備されている「ゲッターレーザーキャノン」は漫画『真ゲッターロボ』が初出である。その他に、ゲッタードラゴンビームフルパワー、ゲッタードラゴンダブルキック、ドラゴンキックなどがある。90万馬力。

## 【ゲッターライガー】

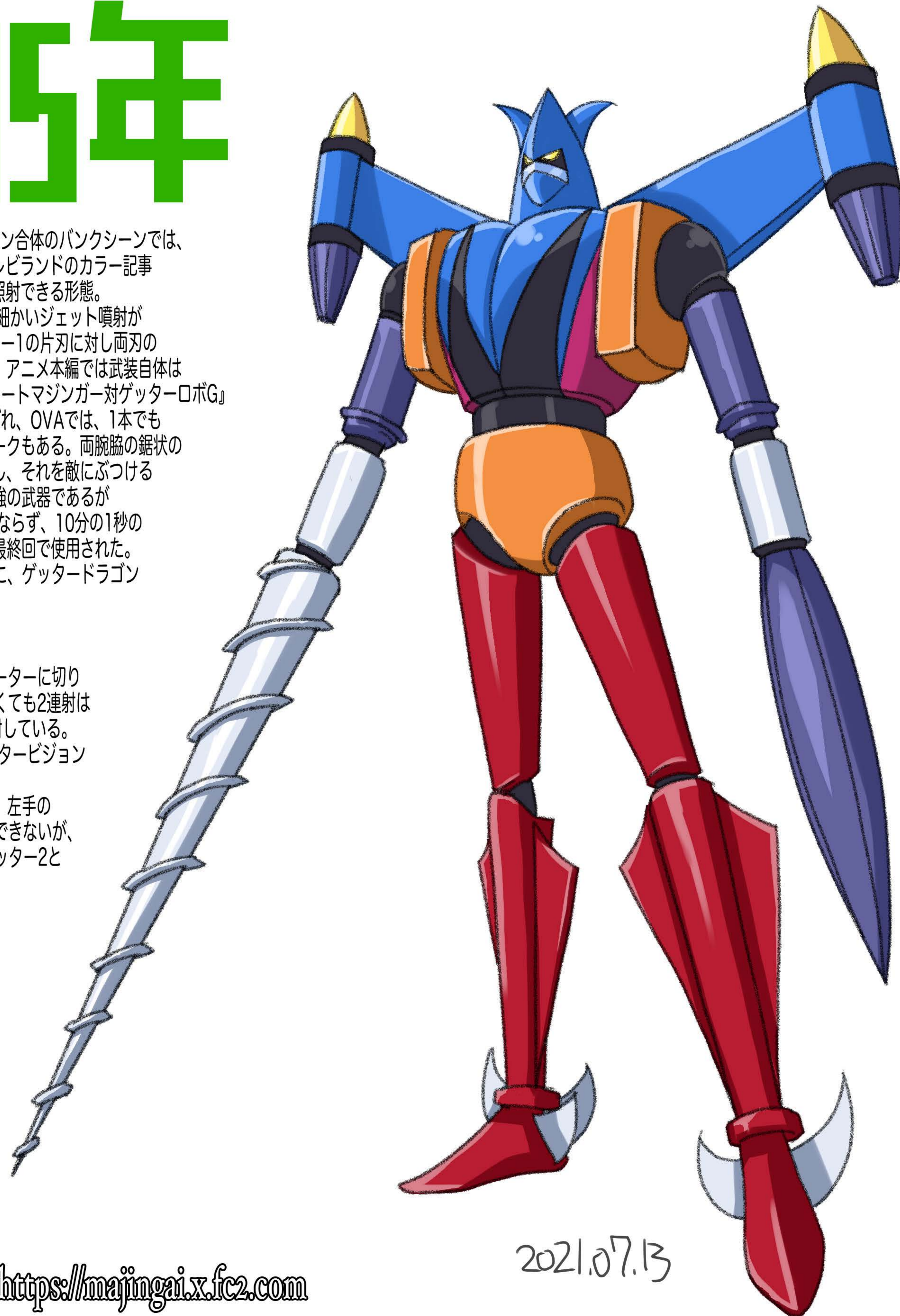
ライガー号が頭部と胸、ポセイドン号が胴体と腕部、ドラゴン号が脚部を構成。地上・地中用で右手がドリルアームとマニピュレーターに切り替えられる。左手のアンカーはチェーンで飛ばすこともできチェーンアタック、開くと中からライガーミサイル（連射可能、少なくとも2連射は劇中確認されている）を発射できる。この他にも最終回でミチルが操縦していた際には前作ゲッター2と同様にドリルパンチを発射している。固有の必殺技として超高速移動で敵を幻惑しとどめを刺すマッハ・スペシャルを持つ。これは最大速度マッハ5のゲッター2のゲッタービジョンより速度は落ちるマッハ3だが空中でもこの技の使用が可能となっている。名前はライオンとタイガーの交配種「ライガー」から。ゲッターライガーもはじめから飛行可能であり、マッハ・スペシャルの応用で短時間ならマッハ4で飛ぶことも出来る。OVAでは、左手のアンカーとドリルが共用になっており、右手は変化しない。アンカーとドリルが共用のため、ゲッターミサイルを発射することができないが、チェーンで飛ばす機能はそのままである。なお、最終決戦では百鬼帝国に捕らわれている隼人に代わりミチルが操縦している。ゲッター2と同じく地上では最速を誇る形態だが水中での性能、速度は若干ゲッタードラゴンに劣る。75万馬力。

## 【ゲッターポセイドン】

ポセイドン号が頭部と胸、ドラゴン号が胴体と腕部、ライガー号が脚部を構成[注 2]。背中にストロングミサイルを備えている。水中用で指先からフィンガーネットを放ち敵をからめとり、首の付け根に隠された大型ファンで生み出される猛烈な水流、ゲッターサイクロンからストロングミサイルに繋ぎとどめを刺す（ゲッター3も大雪山おろしからゲッターミサイルに繋ぐフィニッシュなので必勝パターンは、ほぼ同じである）。通常は二本足だが不整地では膝から下がキャタピラオンによりキャタピラに変化する。作中で使われたことはないが、スーパーロボット大戦シリーズでは、武蔵がゲッター3で使用していた必殺技「大雪山おろし」を使用可能で、弁慶が特訓することで習得する作品もある。後にポセイドンも飛行できるように改造が加えられた（アニメ版では最初から飛行可能）。また、OVAでは、ストロングミサイルを敵に直接叩きつける荒業を披露している。漫画版では出番がたった5ページだけだったが、アニメ作品での活躍度は高くドラゴン、ライガーでも敵わなかったメカ大輪鬼の武器である巨大車輪を怪力を活かして封じ粉砕したこともあった。

110万馬力。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』





# ゲッターロボG 1975年

## 【ゲットマシンの合体形態など】

初代ゲッターロボと異なり合体軸は統一されており、3体いずれもゲットマシン状態の時のマシンの上面（=操縦者から見て頭上となる向き）が、ゲッターロボ状態の時の正面に、マシンの前面がロボの上面になる。また、初代ゲッターロボでは当初は有視界操縦が不可能で、中盤から合体後に操縦席が頭部に移動して有視界操縦になっていたが、ゲッターロボGは操縦席の位置はそのままに向きだけが回転するだけで有視界操縦が可能になっている。

※ゲッターロボGのその後は漫画版『真ゲッターロボ』で描かれる。真ゲッターロボ起動の際、ゲッタードラゴンはゲッター線増幅装置として利用されていたが、謎の敵との戦闘中に炉心のメルトダウンを起こし、弁慶共々地底へと沈降してしまう。しかし、ゲッタードラゴンは超高温の地底で未知の存在へと進化を始めており、謎の敵との決戦においては地底から出現して敵の超巨大戦艦を破壊した。その際に発生した高熱とゲッター線により、早乙女研究所所員は竜馬、隼人の二人を残して全滅している。数十年後の『ゲッターロボアーク』では、流竜馬の息子の拓馬の危機に際し、地底から復活した様子が描かれた。また、『真ゲッターロボ』にはゲッター聖ドラゴンと呼ばれる存在も登場している。ただしこれらはTVシリーズとの関連性はなく、あくまで漫画版の結末となる。

## 【ゲットマシン】

ドラゴン号、ライガー号、ポセイドン号の3機であり、役割的には先代のイーグル号、ジャガー号、ベアー号と差異はない。ただゲッターロボが一回り大きくなったためにゲットマシンもそれに比例しており、速度もアップしている。武装はレディコマンドを含めてミサイルに統一されており、ドラゴン号とライガー号は腹部からの小型ミサイル（それぞれドラゴンミサイル、ライガーミサイルと呼称されている）、ポセイドン号のみベアー号と同じく大型ミサイルである。ドラゴンとライガーのジェット噴射は2門だが、ポセイドンは3門。

## 【レディコマンド】

ゲットマシンと同じデザインラインを持つ早乙女ミチルの愛機。偵察・援護用の機体である。前作最終回で武蔵がコマンドマシンで特攻したため、新たに登場した機体（アニメ版）。コマンドマシンよりも鋭角的なデザインになっている。アニメ版ではゲッターロボGにエネルギーを補給する補給機役を果たしていた。コマンドマシンは度々破壊されていたが、レディコマンドはアニメ版最終回目前で初めて破壊された（このときはミチルではなくハヤトが操縦）。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

## 【スタッフ】

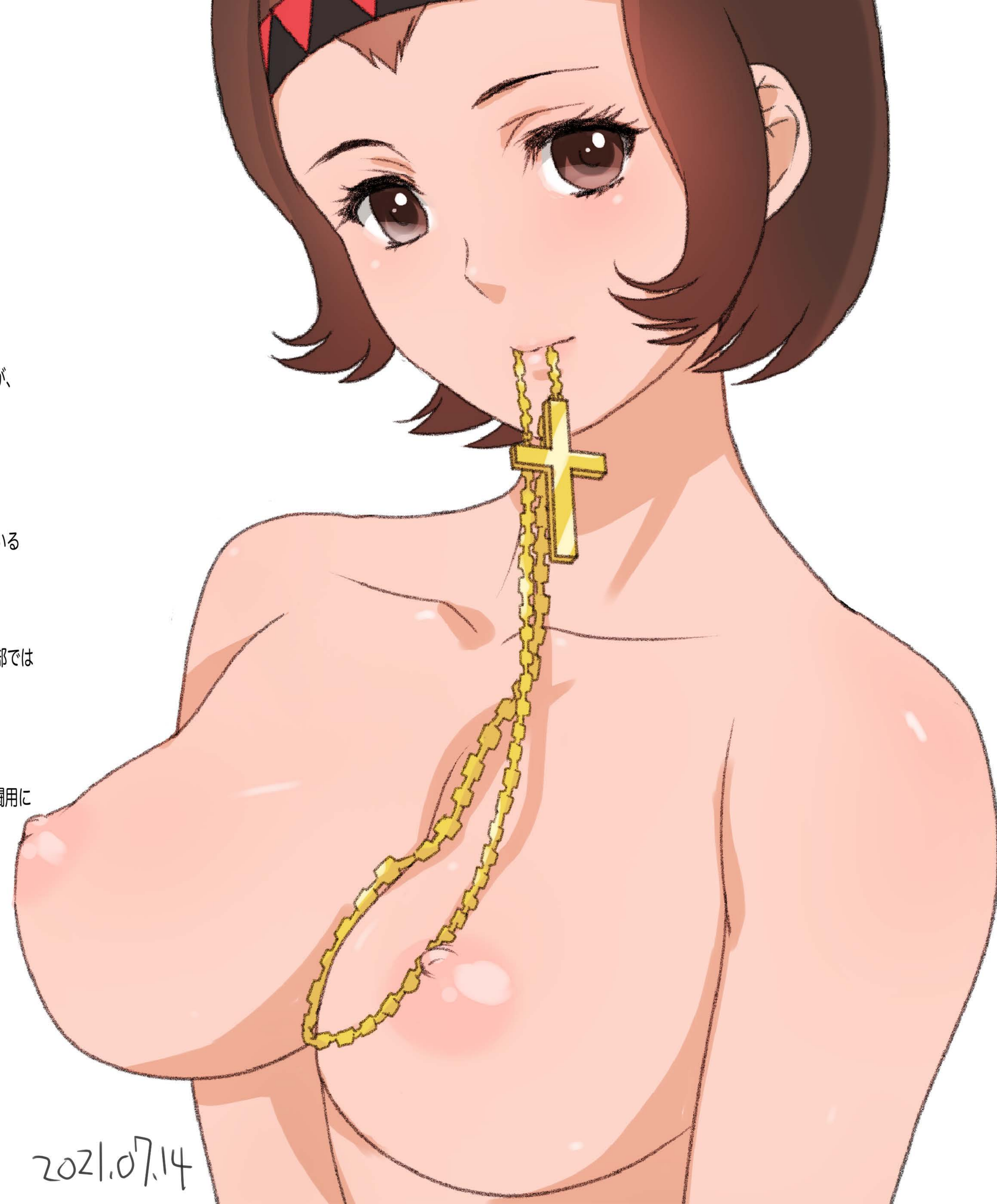
- 原作： 永井豪、石川賢
- 連載： テレビランド、週刊少年サンデー、冒険王
- 企画： 別所孝治、勝田稔男、小田克也
- 制作担当： 菅原吉郎
- 製作進行： 竹澤裕美子、高山秀樹、多田康之、片岡修二、福島和美、井内秀治
- 美術： 辻忠直、伊藤岩光、内川文広、勝又激、川本征平、福本智雄、下川忠海、千葉秀雄
- キャラクター設計： 小松原一男
- 制作： フジテレビ、東映



2021.07.13



# ゲッターロボG 1975年



【流 竜馬 (ながれりょうま)】声 - 神谷明  
ドラゴン号およびゲッタードラゴンの操縦者。愛称はリョウ。前作に比べ、大らかな一面を見せるようになったが、当初は独断的な行動をとる弁慶には激怒していた。早乙女博士からは相当の信頼を置かれており、学校の寮から隼人・弁慶と共に早乙女宅に移り住んでいる。本作では前作で彼の人物背景はやり尽くしていたため、父親のエピソードのみとなっている。戦闘服の変更はなし。

【神 隼人 (じん はやと)】声 - 山田俊司 / ナレーションも兼任  
ライガー号およびゲッターライガーの操縦者。クールな性格と孤高の雰囲気は相変わらずだが、独断専行は影を潜めるようになった。前作後半から真の意味でリョウをリーダーと認めるようになり、サッカー部にも在籍しているらしい描写がある。仲間を思いやる描写も増えている。戦闘服の変更はなし。

【車 弁慶 (くるま べんけい)】声 - 八奈見乗児  
ポセイドン号およびゲッターポセイドンの操縦者。楽家家で子どもや動物を可愛がる、大らかな性格だが (アニメ版では) 動物を理不尽に殺された時には凄まじい怒りを露わにする。浅間学園へ途中転校生ながら野球部では主将を務める。竜馬・隼人でさえ苦痛であった新ゲッターマシンの加速にも平然としていたほどタフであり、武蔵以上の大食漢である。父はジャンボ旅客機のパイロット。戦闘服は野球の捕手の防具一式を装備。『グレートマジンガー対ゲッターロボG』では補助隊員扱いになっている。

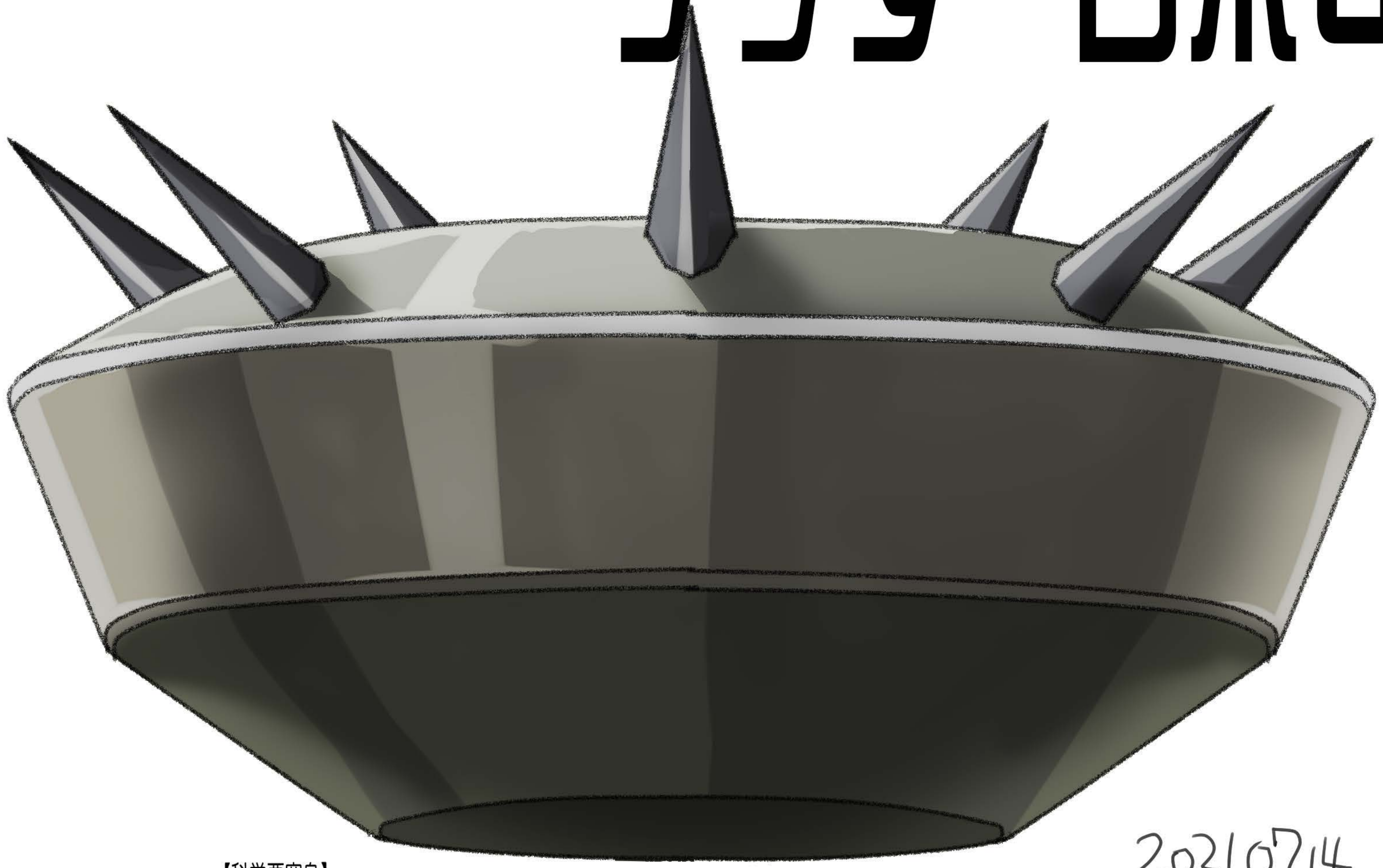
【早乙女 (さおとめ) 博士】声 - 富田耕生  
早乙女研究所の所長。フォーダムG (新早乙女研究所) を再建し新たな敵 (百鬼帝国) に備えゲッターロボを戦闘用に新造し、以前の10倍に強化した (同時にゲッターロボの大きさも約1.3倍になった)。

【早乙女 ミチル (さおとめ ミチル)】声 - 吉田理保子 / 吉田美保 (スーパーロボット大戦シリーズ)  
早乙女博士の娘で、レディコマンドの操縦者。ゲッターロボの燃料補給も担当する。

【早乙女 元気 (さおとめ げんき)】声 - 菊池紘子  
早乙女博士の二男。武蔵死亡後、弁慶と出会い仲良くなる。地虫鬼と友情を交わす一幕もみられた。  
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



# ゲッターロボG



2021.07.14

## 【百鬼帝国】

百鬼帝国（ひゃっきていこく）とは、『ゲッターロボG』に登場する敵勢力。頭に角を持つ「鬼」と呼ばれる者たちによる軍政国家。アニメ版では「嘴の付いたユニコーン」をエンブレムに掲げている。鬼は元から角を持つ一種のミュータントと、サイボーグ手術を受けて鬼になった者が混成している。高度な科学力と強靱な肉体を持っているが、角を折られると死んでしまう。恐竜帝国の全滅を見計らったかのように世界侵略を開始する。人類奴隷化計画に必要なゲッター線増幅炉を手に入れる為、新早乙女研究所を狙う。アニメ版、およびその当時連載されていた漫画版では百鬼帝国の起源については詳細不明となっているが、漫画版においては1990年代での単行本化の際に書き加えられた追加エピソードにより「ゲッターロボと地球人類の根絶を望む存在」がその誕生に大きく関わっていることが後付で設定された。歴史改変でゲッターエンペラーを消滅させようと時空を超えるも墜落した異星人の宇宙船を、発見して異形となった科学者たちがその正体。『G』で滅んだブライ大帝は遙か未来でその異星人たちに再生され、過去に送り出されて真ゲッターと戦った。また漫画『ゲッターロボアーク』では百鬼帝国の残党が復讐のために、異星人と手を組み未来と行き来しながら暗躍していた。出典: スーパーロボット大戦Wiki

## 【ブライ大帝（ブライたいてい）】声 - 八奈見乗児 / 緒方賢一（『ゲッターロボ』最終回）

百鬼帝国を統率する冷酷非道の大帝。恐竜帝国滅亡を機に、世界征服のための侵略作戦を号令。百鬼メカと百鬼兵士の大量生産のためにゲッター線増幅炉を欲し、早乙女研究所攻略を至上命令としている。掟には厳しいが部下に対する温情はある程度持ち合わせているようで、百人衆の労をねぎらったり、最終回でも奇跡の生還を遂げたヒドラーに休息するよう命令していた。最終決戦で自ら科学要塞島を操縦し出陣するも、シャインスパークの前に敗れ、百鬼帝国も壊滅した。その出自は作中では明言されなかったが、学年誌『小学二年生』の特集記事によると、少年時代、ある日突然に角が生えてきて超能力を得たミュータントで、自作のロボットに命じて自身をサイボーグにしたらしい。

## 【ヒドラー元帥（ヒドラーげんすい）】声 - 緒方賢一

百鬼帝国の軍事部門の最高責任者。冷酷、狡猾で非常に腹黒く、現在の地位も味方を陥れて手に入れたものである。目的達成のためには味方を犠牲にすることを意に介しないばかりか、自己の栄達・保身のためなら有能な味方を姦計で陥れる（11話、16話など）ことも平然と行う。メカ要塞鬼を直接指揮するなど前線に赴くこともあるが、常に専用の小型戦闘機で脱出出来る様にしている。ただ、指揮官および一兵士としての実力は本物であり、第35話で空爆隊を指揮した際には国防軍新鋭戦艦シーフォース号のバリアーを突破する荒技を披露し、撃沈寸前まで追い込んだ。第38話でメカ闇虫鬼に乗り込んできたハヤトと相打ちになったかに見えたが、辛くもハヤトを捕虜にして帰還する。しかしそれが裏目となって、脱走したハヤトの破壊工作により科学要塞島は破損。そこにシャインスパークを叩き込まれてヒドラーはブライ大帝もろとも死を迎えた。

## 【グラー博士（グラーはかせ）】声 - 矢田耕司

百鬼帝国の科学・兵器開発部門の最高責任者。他にも、侵略作戦の立案にも携わる。少年兵である地虫鬼の処刑の停止をブライ大帝に嘆願するなど、一族内では温情を持っているほうである。また、第16話に登場した鉄甲鬼に代表されるような弟子や部下なども多く、ブライ並みの人望もある様子。最終決戦では合体百鬼ロボットに搭乗して指揮を執り、一時は東京を制圧するが、シャインスパークを受けて戦死する。出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

# 1975年

<https://majingai.x.fc2.com>

## 【科学要塞島】

科学要塞島は『ゲッターロボG』の登場メカ。百鬼帝国の本拠地たる超巨大要塞で、コンビナートや工業プラントを彷彿とさせる無数の巨大建造物で構成された外観が特徴的である。堅牢な重装甲に加え、外壁に無数の砲台を設置。機体下部には万が一の事態に備え、海底移動用の大型スクリーンも装備している。また、ブライ大帝にしか存在を知らされていない「切り札」とも言える重力制御装置によって、空中要塞へと変形するシステムも有しており、変形時には甲板上の建造物を内部に収納して巨大な大車輪の如き威容へと姿を変える。当初は「魔の海域」と称される海難事故多発地帯の海底に設置された巨大シャフトに要塞島を固定しており、付近を航行する船舶を事故に見せ掛けて悉く葬りつつ日本へ百鬼メカを送り続けていたが、第10話でメカ飛竜鬼（SRW未登場）の逃走ルートから潜伏先を割り出したゲッターチームによって発見され、ゲッターロボGとの初対決を迎える。要塞島に設置された無数の砲台による集中砲火や、メカ海王鬼（SRW未登場）の援護攻撃などでゲッターを寄せ付けず苦戦させるものの、砲台が対空砲火のみに特化した固定式である事を見抜かれてしまい、海面ギリギリの超低空飛行で接近するゲッターを迎撃出来ず火薬庫を爆破され、更には島を支えるシャフトも失った事でブライ大帝は「魔の海域」の放棄を決断し逃亡、第1ラウンドは痛み分けに終わる。以降、要塞島は海底移動用スクリーンを活用して日本周辺の海域を神出鬼没に回避し、弱点だった固定砲台の改良や装甲強化などを行ないつつ日本総攻撃の機会を虎視眈々と窺ってきたが、最終決戦では国防軍の監視が手薄と成る深夜を待って総攻撃を開始。新早乙女研究所防衛戦でエネルギー切れを起こし、東京に向かえぬゲッターを尻目に、合体百鬼ロボットと共に首都を蹂躪し遂には制圧せしめる。しかし、「徹底抗戦」を謳う日本政府の決断の下、結集した陸・海・空の国防軍残存部隊やゲッターの逆襲の前に次第に圧され始め、旗色悪しと見たブライはグラー博士の「遺産」である重力制御装置の使用を決断。空中要塞へと模様替えした要塞島の大反撃で、新早乙女研はゲッター線増幅装置もろとも薙ぎ倒されてしまうが、要塞島に囚われていた神隼人が動力室を爆破し、内部から装甲に亀裂が生じた事で形勢は逆転。最期は、破損箇所目掛けて飛び込んできたシャインスパークによって木っ端微塵に粉碎された。出典: スーパーロボット大戦Wiki

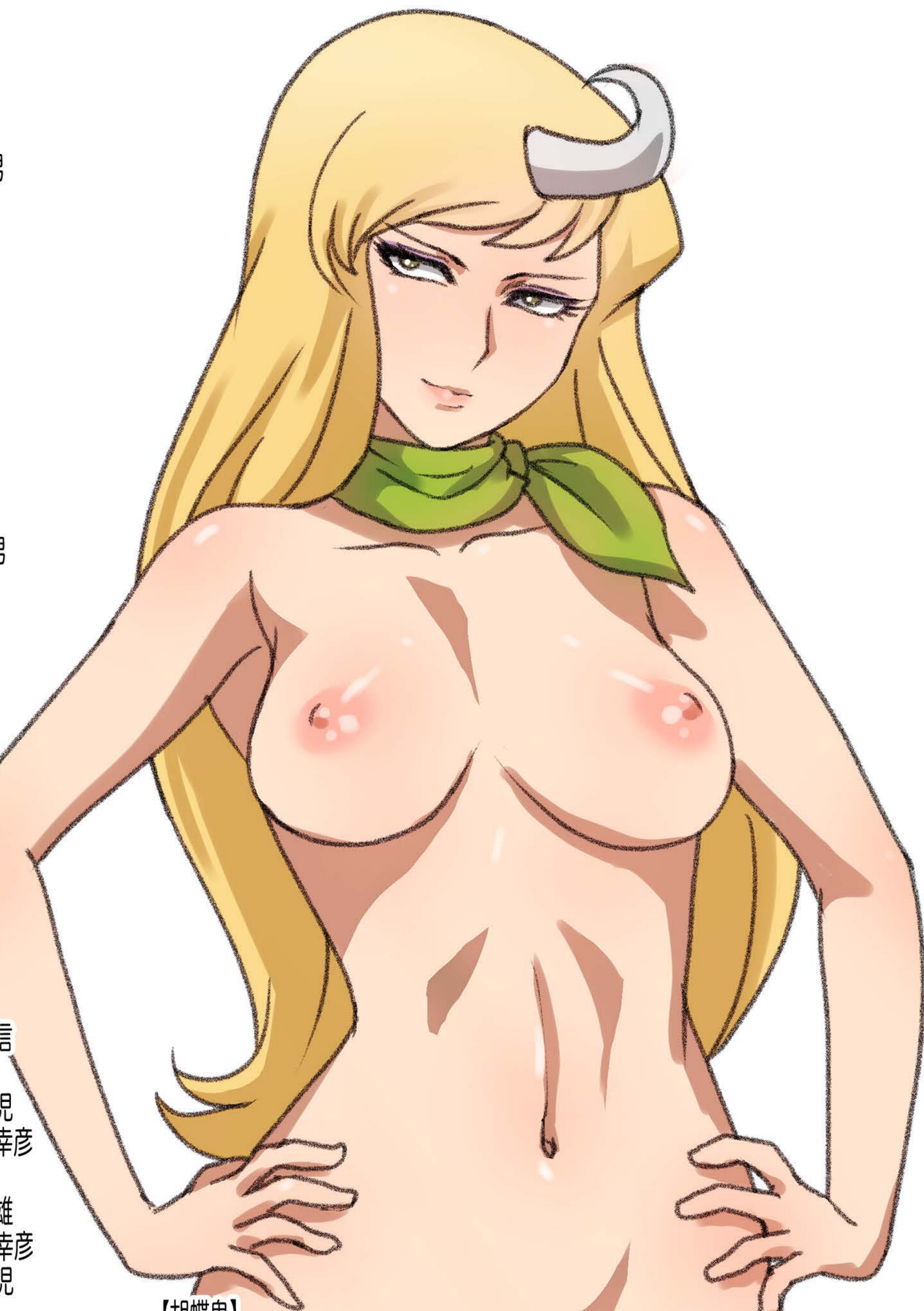


# GetterロボG

【サブタイトル】

話数	サブタイトル
1話	甦れGetter-ロボ!!
2話	恐るべき百鬼帝国の謎
3話	悪の罠! 空飛ぶ船団
4話	ベンケイ! 涙の勝利
5話	恐怖の水爆大作戦
6話	夢を裂く百鬼一族
7話	追跡! 黒いジェット機
8話	夜空に輝く二つ星
9話	SOS! Getter-ロボ応答せよ
10話	悪魔の島を攻撃せよ!
11話	百鬼帝国! 将軍への道
12話	遙かなる荒野の決闘!
13話	こうもり爆弾! 危機一髪
14話	友達は風になった
15話	赤い蝶のバラード
16話	死闘! 嵐吹く男の道
17話	コロよ明日に吠えろ!
18話	危うし伊豆半島沖!
19話	早乙女博士を救出せよ!
20話	大攻撃! メカ要塞鬼
21話	大決戦! シャインスパーク
22話	海底に消えたジャンボ機
23話	月光に躍るピエロ
24話	海に叫ぶ少年!
25話	湖に消えたミチル
26話	鬼になったあいつ!
27話	ツバメよ元気に飛べ!
28話	緑の地球が死ぬ!
29話	涙のあとに口笛を
30話	ドライスノー奇襲作戦!
31話	燃えろ! リョウの剣
32話	元気あの子ってなんなのさ!
33話	夕焼け空が知っている
34話	対決! 百鬼三兄弟
35話	百鬼老兵は死なず
36話	ベンケイ暗殺計画
37話	危機迫る日本近海!
38話	ブライ大帝 決死の大反撃!
39話	大決戦! 日本上空

脚本	演出	作画監督
高久進	小湊洋市	落合正宗
高久進	生頼昭憲	野田卓雄
上原正三	葛西治	山口泰弘
田村多津夫	山口康男	小松原一男
高久進	落合正宗	落合正宗
上原正三	生頼昭憲	野田卓雄
田村多津夫	川田武範	中村一夫
高久進	山口康男	小松原一男
田村多津夫	生頼昭憲	野田卓雄
高久進	川田武範	中村一夫
上原正三	葛西治	野田卓雄
田村多津夫	茂野一清	落合正宗
高久進	森下孝三	中村一夫
上原正三	落合正宗	落合正宗
田村多津夫	山口康男	小松原一男
上原正三	生頼昭憲	野田卓雄
田村多津夫	川田武範	中村一夫
田村多津夫	落合正宗	青鉢芳信
高久進	山口康男	伊勢田幸彦
田村多津夫	生頼昭憲	野田卓雄
田村多津夫	白土武	伊勢田幸彦
高久進	川田武範	白土武
馬嶋満	落合正宗	青鉢芳信
上原正三	葛西治	野田卓雄
馬嶋満	笠井由勝	白土武
田村多津夫	落合正宗	青鉢芳信
馬嶋満	白土武	伊勢田幸彦
高久進	生頼昭憲	野田卓雄
馬嶋満	落合正宗	青鉢芳信
馬嶋満	山口康男	白土武
田村多津夫	葛西治	木野達児
田村多津夫	白土武	伊勢田幸彦
馬嶋満	葛西治	広田全
田村多津夫	生頼昭憲	野田卓雄
馬嶋満	白土武	伊勢田幸彦
高久進	山口康男	木野達児
馬嶋満	笠井由勝	広田全
田村多津夫	生頼昭憲	野田卓雄
田村多津夫	生頼昭憲	野田卓雄



【胡蝶鬼】

第15話「赤い蝶のバラード」に登場。百人衆の中でも数少ない女性百鬼で、エリート戦士としての高いプライドを持つ。女性ながらライディングテクニクに長け、普段からバイクを愛用。また、掌から「光る蝶」を発現させ、邪魔者を消滅させる特殊能力を持つ。Getterチームが在籍する浅間学園に「胡蝶」という人間の姿で現れ、自らの美貌でGetterチームを虜にしてGetter線増幅装置を差し出させようと企む。さらに水泳大会で早乙女ミチルを打ち負かし、「Getterチームの女王」の座を奪おうとしたが、勝利と称賛を求めるあまり人間らしい真心を失っており、そのことを流竜馬に指摘されてショックを受ける。動揺しながらメカ胡蝶鬼でGetter-Gに挑むが、呆気なく敗退。自分の傲慢さを恥じた彼女は自ら鬼の証である角を撃ち砕き、人間・胡蝶として絶命する。その亡骸には、彼女がライバル視していたミチルから手向けの花が添えられた。

【リサ (Getter-ロボG)】

百鬼一族の訓練生で白骨鬼の娘。その優しい心から教官の怒りを買って、百鬼一族に追われる身となった彼女は逃亡中の事故により記憶喪失となってしまう。自らを保護してくれた早乙女ミチルの優しさに感謝するリサだったが、追っ手の百鬼一族の凶弾に撃たれてしまった。  
出典: スーパーロボット大戦Wiki

1975年

<https://majingai.x.fc2.com>

2021.07.14